暑さ日本一！江川崎と「最後の清流」四万十川を通る

予土線の旅

高校１年　石川　直人

予土線とは？

	しまんとグリーンライン（予土線）
窪川	
一（土佐くろしお鉄道）	
若井	
家地川	
打井川	
土佐大正	
土佐昭和	
十川	
半家	
江川崎	
西ヶ方	
真土	
吉野生	
松丸	
出目	
近永	
深田	
大内	
二名	
伊予宮野下	
務田	
北宇和島	
一（予讃線）	
宇和島	

予土線はＪＲ四国の北宇和島（愛媛県宇和島市）と、若井（高知県四万十町）を結ぶ、全長 76.3km の路線である。しかし、全線を通る列車は北宇和島の一つ先の宇和島から若井の一つ先の窪川まで通して走るため、この記事ではその 2 駅もあわせて紹介する。この路線の別称は「しまんとグリーンライン」であり、名前の通り途中で四万十川と並走する区間がある。「最後の清流」とだけあって、列車から見える川も大変きれいなので、景色を最も楽しめる路線の一つと言っても過言ではないだろう。しかし、この路線には、

様々な問題もある。ここではそのことについて語っていくとしよう。とりあえず、まずは、乗車した感想から書くとしよう。

1、予土線に乗ってみて

8 月 24 日（土）私は宇和島 6 時 11 分発の窪川行き普通列車に乗った。この列車はキハ 32 系の 1 両編成である。予土線の半数以上の列車が右の写真のキハ 32 系で運転されている。この車両の詳しい説明は後述するので省略するが、全長は 15.8m と他の JR 車よりも短く（他の JR 車は約 20m）、座席はロングシート（窓に背を向けて座るベンチ型の座席）なので、景色が見えにくいのが残念である。しかし、窓が広く空いているときは広い範囲の景色を見ることができるため、個人的にはあまり嫌いでもないのだが、鉄道ファンからは嫌われていることが多い座席のタイプだ。

6 時 11 分列車は定刻に宇和島駅を発車した。そしてほどなく次の北宇和島に着く。北宇和島は予讃線（高松～宇和島を結ぶ路線）との分岐駅であるが、ホームは狭く、駅舎も小さいため、分岐駅という感じがしない。次の務田駅まで走る間に分水嶺を越えてしまうので、務田までは 33‰という急勾配が続く。景色は完全に山の中といった感じで、右に左にカーブが続くためよく揺れる。しかし景色は悪くないので、四万十川が見える以外にこの区間ももっと宣伝してもいいのではないかと思った。

務田から先は伊予宮野下、二名、大内と田園地帯の中を走っていく。日本の農村らしい景色が広がっていて、遠くの山もよく見える。大内駅で宇和島から 12.4km 走ることになるが、まだ宇和島市内であり、宇和島市は広いなと思った。次の深田駅からようやく鬼北町に入る。この町の中心駅は近永駅だ。駅周辺の住宅街も宇和島、窪川に次いで多く、商店などもある、予土線の中心駅の一つである。

列車はしばらく走って、2013 年 8 月 12 日に 41.0 度と国内最高気温を更新した江川崎に着く。この駅で列車は行き違いのため 18 分間停車する。東京の鉄道と違い、予土線は駅以外では単線で下り列車も上り列車も同じ線路を走るのだ。私は「青春 18 きっぷ」という JR 線内では途中下車自由な切符を使っていたので、一旦駅の改札を出た。駅の改札口には「日本一暑い町江川崎」という旗が立ててあったが、この駅に着いたのが朝 7 時半という早い時間だったためか、あまり暑くなかった。この駅でトイレを利用する。キハ 32 系は長い区間を走る車両にもかかわらず、車内にトイレがついてないため、駅での長時間停車中にトイレに行くしかない。長距離を走る車両にはトイレをつけてほしいものだ。駅のホームの周辺は、山ばかりで、自然を感じ、心が癒される（写真は次のページ参照）。山の頂上が曇っていたこともあり涼しげな印象を与え、さらに、朝の早い時間であることもあって、とても日本一暑い町だとは思えなかった。この駅は四万十川ふるさと案内所という観光案内所と隣接していて、四万十観光の拠点になっている。

江川崎を発車するとようやく四万十川が見えてきた。予土線はこれがウリの路線なので、四万十川を列車から見たい人にはここからがメインと言っても過言ではないだろう。私も四万十川を楽しみにしていたので、川が見えたのには感動した。四万十川は全長 196ｋｍの四国最大の川で、本流に大規模なダムが建設されていないことから「日本最後の清流」と呼ばれる。やはり列車から見えた川はとてもきれいであり、見る者の心を洗うような雄大さがあった。ここからずっと列車は四万十川沿いを走っていく。その間何度も橋を渡り、ある時は右に、ある時は左に、川は見え続ける。つまり、どちら側に座っていても美しい川が見えるのである。これも、予土線の景色が美しい路線と言われる大きな理由の一つであると思う。そして、珍駅名として知られる半家（はげ）駅に着く。この駅の名前の由来は、この地に住み着いた平家の落人が源氏方の追討を逃れるために、「平」の横線を移動させて「半」にしたためと言われている。この駅の駅名表を撮りたかったのだが、停車時間が短く、撮れなかったのが残念である。

江川崎駅にて

列車からとった四万十川

そして列車は走り続ける。列車が右に左にカーブしながら走るせいで、心地よい揺れに

よって眠ってしまい、目覚めたら打井川という駅だった。この駅の５ｋｍ南のところに「海洋堂ホビー館四万十」というフィギュアなど展示しているミュージアムがある。そこにいくシャトルバスも運行されているらしいが、駅周辺は森なのであまり博物館の最寄り駅という感じはしなかった。ここから家地川、若井と列車は走っていく。若井駅は予土線の戸籍上の起点駅ということになり、ここから先は土佐くろしお鉄道に乗り入れるということになる。よって、青春 18 きっぷなどの JR 線内でしか使えない切符を使う場合はこの駅から窪川間の土佐くろしお鉄道の運賃 200 円を払う必要がある。そして、定刻の 8 時 47 分に終点の窪川駅に着いた。宇和島からの所要時間は 2 時間 36 分で時間だけを見ると新幹線で東京から新大阪に行くよりも少し長い時間乗ったということになる。短いようでとても長い旅であったので、少し疲れた。

2、予土線を走る車両たち

キハ 32 系

昭和 62 年 3 月に投入された軽快形気動車。全長は 15.8ｍと短く、エンジンは 250ps のものを 1 基搭載。車両は 11 編成が予土線で運用されている。キハ 32-4 はジョイフルトレイン「海洋堂ホビートレイン」に改造されて独自の塗色となり、2011 年 7 月 9 日から営業運転されている。室内はロングシートで、トイレは設置してない。これは、長距離を走り乗客もあまり多くない予土線には向いてない車内設備である。

キハ 32 系正面（宇和島駅）

キハ 32 系側面（江川崎駅）

キハ 54 系

昭和６２年３月、四国内の輸送改善（旧型車の置き換えと輸送効率化）を目的に投入された勾配線区向け気動車。全長は２１．３ｍと大型で、エンジンは水冷直列６気筒１３リッター　インタークーラー付きターボチャージャーを 2 基搭載している。予土線では 9 編成が使われる。しかし、予土線で運用されるのは 811Ｄ、4825Ｄ、4820Ｄ、832Ｄの 2 往復のみであり、主力車両とは言えない。室内はキハ 32 系と同様ロングシートで、トイレは設置してない。やはりこれも長距離を走り乗客もあまり多くない予土線には向いてない

車内設備である。
他にもトロッコ列車が運転されている。

3、予土線で個人的に改良してほしいこと

① 車両の置き換え
今の予土線の車両は先にも書いたようにロングシート・トイレ無しのため、景色が見やすいクロスシートの車両に置き換えてほしい。また、長距離を走る列車として、トイレはつけるべきである。

② 快速列車の運行
現在、予土線には優等列車が全く走っていない。しかし、長距離を利用する人にとっては早く移動するためにも快速列車が必要ではないか。停車駅は昔の特急と同じ窪川駅 － 土佐大正駅 － 十川駅 － 江川崎駅 － 松丸駅 － 近永駅 － 宇和島駅が妥当であろう。

「以上の文章は、あくまで乗車体験に基づいて考えた個人的な見解であるのであしからず。」

＜参考文献・サイト＞

「鉄道ジャーナル」2012 年 12 月号
「Wikipedia」 http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%88%E5%9C%9F%E7%B7%9A
「SHIKOKU'S World」 http://www.shikoku.org.uk/

ここまで文章をお読みくださいまして、ありがとうございました。